

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						3.1	
Q1 室内環境			0.40			3.7	
1 音環境		3.0	0.15	3.3	1.00	3.2	
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		3.0	0.50	3.6	0.50		
1 開口部遮音性能	住居T-2以上	3.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能	—	3.0	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音	—	3.0	-	-	-		
2 温熱環境		3.0	0.35	4.0	1.00	3.8	
2.1 室温制御		3.0	0.50	4.0	1.00		
1 室温	—	3.0	0.63	-	-		
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準 5-1断熱等性能等級4相当である	3.0	0.38	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性	—	3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御	—	3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式	—	3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境		3.6	0.25	4.0	1.00	3.9	
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.50		
1 昼光率	共用部2.5%≤、住居部2.0%≤	5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口	—	-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		4.0	0.30	4.0	0.50		
1 昼光制御	カーテンと庇の2種類を組み合わせて昼光制御している。	4.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度	—	3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御	—	3.0	0.25	-	-		
4 空気環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6	
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38		
1 換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能	—	-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視	—	-	-	-	-		
2 喫煙の制御	—	-	-	-	-		
Q2 サービス性能			0.30			2.9	
1 機能性		3.0	0.40	2.6	1.00	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性	—	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応	—	-	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画	—	3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観	—	-	-	1.0	0.50		
2 リフレッシュスペース	—	-	-	-	-		
3 内装計画	—	3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30			3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準の劣化対策等級3相当である	5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	-	-		
3 電気設備	—	3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備	—	2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	住居 階高2.9m以上	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	中・高木、ピロティ等の水平投影面積率が30%以上(57%)確保し、日陰の形成に努めた。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		UA=0.46(全住戸の平均値)	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI] = 0.85以下	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上が容易に分別可能(LGS下地+石膏ボード仕上げ)	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインチェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない。	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	○	○	-	-	○	-	○	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	2.0	2.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	13.0		2.0	1.0	3.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		2.0	-	-	-	3.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 0.5 η AC 1.7 η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 共22%住4%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 75年 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 2.96 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 21% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 44% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 17%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 等級4 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 - 住宅 0.75 太陽光 0.0kW 太陽熱等 0.0kW 蓄電池 0.0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標R _w - 地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 0 m 基準高さH _b 0 m 緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡